人間はクズ　いや、俺は人間のクズ。

lx氷龍xl

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
人間はクズ　いや、俺は人間のクズ。

【Ｎコード】
Ｎ２３０１Ｙ

【作者名】
ｌｘ氷龍ｘｌ

【あらすじ】
俺です。
イケメンです。
地味面です。
帰宅部です。
高校生です。
文句ある？

俺は、高校生。（前書き）

高校生の俺が、イケメンだけど性格地味面な俺が、恋してはりました。
でも人間は嫌いじゃ、でも、好きな人くらいおるんじゃ／／／

俺は、高校生。

俺は、高校生。
嘘だと思うか？本当だ。
そこ疑ってくるのか貴様、これだから人間は…。
おっと済まない。

俺は、高校生。
帰宅部オールスターズの一員だ。
俺が幼稚園児の頃に立てた将来の夢。
「仮面ライダー」
馬鹿か。アホか俺は。
2次元と3次元ごっちゃにしてんじゃねえよっていう。
んで、今更だが自己紹介。
中村　浩太と申します、はい。
え、読めないの？　本気で言ってんの？
笑えるわぁー　なかむら　こうた　って言います。　クスッ
まぁ、今となっちゃ将来の夢なんて、ちっぽけなもんだよ
俺はこのまま、普通に卒業して、普通に大学入って、普通に就職して、普通に稼いで、普通に結婚して、普通な生活を暮らしていきたい。
学校では割と静かな方。
まぁ、べつにそこまで人に好かれてるわけでもなく嫌われてるわけでも無い。
でも、残念なことに俺は人が嫌いだ。
みんな、高いとこ行ったことあるか？
うんちゃらタワーとか、ゴニョゴニョツリーとか。
そっから見てみろ、蟻がうようよしてんぞ、蟻が。
その蟻が人間。そしてその人間に一人に俺がいる。

とても悲しく思えてくるぜ
みんな、グラセフュとかやる？（著作権的関係で若干変えてます☆）
俺さ、最初にも言ったけど、帰宅部オールスターズの一員なんだ。
オールスターズの中でもナンバーワンを争うゲーマーなんだ。
グラセフュで何回人を殺したと思っております？
ったく、人間って脆いな。うん。

こんな僕にも、好きな人がいます。
いや人間は嫌いだよ？
でもさ、カワイイ人は別だよ／／
性格地味です。
まぁ、帰宅部オールスターズとか言われちゃってますからね。
でも、意外とイケ様って言われるんです。
もったいないって言われます。はい。
なんで、若干髪とか気にしてます、ワックスバリバリです。
あとけっこう見た目はモテる要素たっぷり詰めてます。
でも、地味なんです。
で、ここまでしゃべってきて、なにが言いたかったかというと、
「内面地味チャンのイケ様が狙う！　アイツの彼氏は俺だけだ！」
っていうね。
でもね、俺ね、女子との関わり方と変わらんのよ。
帰宅部オールスターズに聞いても、
「とりあえず触っちまえよ　ぐへへへへ」
「ただただ見つめるんだ。相手の目を…じっと…そして……逃げろ」
「俺が駆けつけるから呼んでくれよ」
パッと見変態内面変態しかいねえからこんな感じの答えしか帰ってきやしねえ。

そんな俺がアイツのハートをキャッチして、無事結婚♪てきなね。
そんなＨａｐｐｙ　Ｅｎｄで終わればいいなと思いまっする。

さてと、登校しますか。もうソロ８時１５分。
うん、やばい♪

俺は、高校生。（後書き）

ぜひとも感想評価お願いします。

おうし座1位の俺だぜ（前書き）

高校生の俺が、イケメンだけど性格地味面な俺が、恋してはりました。
でも人間は嫌いじゃ、でも、好きな人くらいおるんじゃ／／／

おうし座1位の俺だぜ

キーンコーンカーンコーン

チャイムが鳴った。
俺は今、下駄箱にいる。

「おい！中村！もうチャイムなってるぞ！」
先生だ。　このセリフ、ほとんど毎朝聞く台詞だ。
「あ、はい、すいません。」

ガラガラッ
「おはようございます、中村君。2分遅れてますよ？」
担任にも言われる、同じ事を何度も言われると腹立つ。
「あ、はい、すいません。」

先生の長い連絡事項を聞き終え、授業が始まる。

「あぁーい、席つけぇー」

先生の華麗な登場だ。
コレは現国の先生、かなりダルそうな先生なんだ。

授業中いつも俺はあることをしている。
それは

『山本（やまもと）　春菜（はるな）の観察日記★』

ああ、山本春菜ってのは前話した俺の好きな人。

カワイイんだぞ、みんな見たら一目惚れしちゃうぞ。
まぁ、観察日記書いてる俺だが、
はたから見ると俗に言う「変態」ってやつだろうな。
まぁ、そう思われてもしょうがないだろ、と思っている。
人の目ばっかり気にしてたら生きていけねぇからな！（　ー、ヨー
ノ）キリッ

「うあぁーい、授業終わりー、お疲れさん」

アァー、授業疲れるわ。
それよりなにより、春菜ちゃんは俺のことどう思ってんのかな？
こういうのって気になるよね、わかるかな、恋してる人々よ。

なんかさ、こう、いいタイミングでさ、春菜ちゃんの友達が
「ねぇねぇ、浩太のことどう思う？」
とか聞かないかな？
あり得ないか、うん。

「春菜ー！！」
「んー？あーちゃんどうしたの？」

あーちゃんっつーのは、春菜ちゃんの親友の
高橋（たかはし）　旭（あさひ）日だ。

「ねぇねぇ、浩太くんのことどう思う？」

キタ━━━（゜∀゜）━（　゜∀）━（　　゜）━（　　）━（　）━（゜　）━（∀゜）━（゜∀゜）━━━！！
なにこの展開？！　さすがおうし座1位なだけアルぜ！！

「浩太くん？」
「そうそう！！ハルはどう思ってんのかな？って！」
「うーんとねぇ、あたしは…」

来い！来い！
良いコメント来い！

「かっこいいと思う！」

うぎゃぁー！
え？！え？！　マジかぁ！！

「でもね、ジンミッ」

ですよねぇー
帰宅部オールスターズですもんー

「アレで、性格優しかったら絶対もてると思う！」

性格か！よっしゃ！
イメチェンしようかな！

「性格良かったらハルは好きになる？」
「うーん、候補にはなる可能性もなくはない！」

イメチェン確定☆

「そっかぁ！ごめんね！イキナリ変なこと聞いて！」
「いやいや、いいんだよ！（笑）」

うわ、笑顔超可愛いし（＊／／／／∇／／／／＊）
惚れてまうやろォー！
いや、惚れてますけど。

キーンコーンカーンコーン

放課後です。

1日って早いものですね。
もう春菜ちゃんとお別れですか、早い。

「ハルー！一緒に帰ろォー！」
「あーちゃん、ごめん！あたしきょう部活あるんだ…！」

あ、そうか、春菜ちゃんは部活やってるんだ。
バスケ部だっけか、一度でいいから見てみたいなぁ

「そっかぁー、じゃぁ、仕方ないか！！」
「うん、ごめんねぇ！」
「いいよ！いいよ！うち違う人と帰るから！」
「うん、本当ごめん！」

さてと、俺も帰ろうかな。
一人でのたのたと帰るのがいつもの帰り道。

「浩太くん！一緒に帰ろ…！」

え？　えぇぇぇぇぇぇぇぇ！？
旭日が一緒に帰ろうだとぉー？

「え？あ、うん、いいよ」
「やったぁ☆」

え、なにこの展開？！
女子と二人で帰るんんて初めてだ！

「うち、浩太くんと話すの初めてかも！」
「お、おぉ、そうだな」
「なんか、照れるねぇーっ！」

うお、何だこいつ…
け、結構カワイイじゃねぇか…！！

「家どの辺なのー？」
「あの、セブンの裏あたり」
「へぇー！結構近いんだね！」
「そ、そうだったんだ」

やべぇ、何だろうこの気持ち
なんか、変な感じする。

「あーちゃーん！！」
「あ、ゆうちゃん！」

うっわ、気まず！
え、なに、友達？
まじかよ、くっそ恥ずいじゃねぇかよ！

「お？お、お、お？　いい彼氏つれてんねぇ、あーちゃん！（笑）」

「や、やめてよぉー／／／」

か、彼氏…！！

「彼氏なんでしょー？（笑）」

「ちっ、違うよ！ただの友達だよ！」

友達…。

俺、友達いたんだ…。

旭日、俺のこと友達だと思ってくれてたんだ…！

「ねぇねぇ！イケメン君！どうなの？あーちゃんの事好きなの？（笑）」

「やっ、ゆうちゃん！！やめてよ！」

え？俺？

「い、いや、俺は別に…」

「ほ、ほらね！だから言ったでしょ！」

「なぁーっんだ！つまんないなぁ（笑）あ、ウチ家ここだから！」

「じゃぁーねー！」

やっといなくなった。

何か、もう、怖かったw

「ご、ごめんね浩太くん！」

「あぁ、気にすんな」

「ありがとう♪優しいねッ！！」

優しい……！？

俺って、優しいのか？！
もしかしてコレは、来たんじゃね？！

「浩太くんってさ、いっつもなにやってるの？」
「いや、特にこれといったことは…」

嘘つけ！
ゲームしかやってねぇだろ！
モンハンばっかだろ！

「そうなんだ！じゃぁさ、きょうこれから空いてる？」
「きょ、きょう？え、えっとー、う、うん。空いてるよ」

テンパり過ぎ！
俺テンパり過ぎ！
ってか、きょうウカムの最速タイムだすんじゃねぇのかよ！

「やったぁ☆じゃぁ、一緒に出かけよ！きょう、暇なんだァ！」
「そ、そうなんだ、俺でいいならね。」
「全然いいよ！むしろ浩太くんがいい！！」

俺がいいだと…！
嬉しいぞw

「じゃぁ、きょう帰ったら4時にセブンに集合ね！」
「わかった」
「じゃ、ウチこっちだから！」
「おぅ、じゃ」
「ばいばーい☆」

ふぅ
落ち着いたぜ。
きょう俺は初めて女子と二人で帰った挙句二人で遊ぶだと？
おうし座1位の力ハンパねぇ！

よっしゃ！
俺が持ってる中で一番おしゃれな服来ていこっと！

うし、準備完了！
行くか！

おうし座1位の俺だぜ（後書き）

感想、評価お願いします。

シャッター音は、人をも傷つける。

俺は待ち合わせ場所に向かった。

「浩太クーン！」

「あ、どうも」

「って、え？！ちょ…何そのカッコ！」

俺の中では一番のおしゃれだった。

なんか、すげぇショック。

「でも、浩太くんはそういうのが似合ってるのかもね！（笑）」

なんだそれ、褒めてんのか、バカにしてんのか

どっちにせよ、変なことには変わりないだろう。

「ようし！じゃぁ、行こっか！」

「…おぅ」

二人は歩き始めた。

特にこれといった場所はなかったため、うろちょろしてるだけだった。

俺は、結構面倒くさくなっていた。

と、そこで…

「ねぇねぇ、あれ知ってるー？」

旭日が何やら洒落たボックスを指さしていった。

「全く知らん」
「あれね、プリクラっていうんだよ！」
プリクラか…、なんか聞いたことあるなぁ。
「ここで問題です！」
「え？」
「プリクラとは、なんの略でしょうか！」
知らん！全然知らん！
プリクラだろ？
プリプリクラシック？
プリンくらいの大きさ？
全然分からん！

「あの、そういうの全く分かんないんだけど…」
「あ、ごめんごめん（笑）正解は、プリントクラブだよ！」
「へぇー」
知った所でどうしようもない知識ゲットだぜ！

「んでさ、あれ、行かない？」
「え、まぁ、いいけど、あれって何すんの？」
「写真撮るの！」
「ふ、二人で…？」
「そうだよ♪」
お、おぉ、まじか。
まあ、初ってことで、撮ってみてもいいかな

「へぇー、そうなんだー」
「いい？」
「うん」
「じゃぁ、行こう☆」

中に入るとそこはなんか変な感じがするボックスだった。
後ろには緑のシートがありこんな背景で写真取るのかと思いますます変な感じに

『お金を入れてね！』

え？！カネカカルノ？！

「今回は私がお金払ってあげる！」
「有り難き幸せ」

良かったぜ、こんな所で無駄金使ってる場合じゃないんだ！
旭日は、一人でキャッキャキャッキャしてる。

「ねぇ、浩太くんとるよー？ホラホラ、携帯いじってないで！」
「ん、あぁ、悪い。」

携帯でツイッターしてたんだ
『プリントクラブなう』

「はい、チーズ☆」
パシャぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！

「ウオッ…！」
「どうしたの？」

「いや何でもない。」

音デケェ！

不意打ちだったぜ！！ｗｗ

「ここのプリクラシャッター音が異常だからね♪」

なぜ他のを選ばないのだ、小娘よ。

「もう一個撮ろ！」

「はい、チーズ☆」

パッシャぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！

うるっせぇよ！！

耳破裂するわ！

「よし、完成☆あとはでこるだけ♪」

デコってる間、暇な私です。

Ｔｗｉｔｔｅｒ「シャッター音は、凶器だった」

「できたよぉー！！」

「おぅ、さんきゅ」

デコるセンスがめちゃくちゃすごかった。

帰ったらＰＳＰにでもはろうかな。

それにしても、この辺は人が多い！

気持ち悪い！

最近は人馴れしてきたけど、でもやっぱり嫌いｗｗ
知ってる人とかなら結構行けるようになったぜ！！
俺はその後もさんざん旭日のショッピングに連れ回された。
「今日はありがとね！付き合ってくれて！」
「うん」
「じゃぁ、今日はこの辺で！」
「ノシ」
家に着き、まずはＰＣ起動。
それと同時進行でＰＳＰ起動。
早速モンハンを！！
「あ、そういえば」
きょう撮ったプリクラを見た。
「ＰＳＰに貼ろ」
ＰＳＰの裏面に貼った、意外といい。
自然と笑顔があふれた。
「よし！ウカムいこう！」
最善の装備で俺はウカムの狩りに向かった。
こんな時間を過ごしながら、現在時刻は、午前４時。

「ハンゲも飽きてきたなぁ。そろそろ寝るか」

俺は平均睡眠時間2～3時間と少なめ。
授業は寝ずに受けている。
もう、睡眠しない生活にも慣れている。
常にゲームやってる俺は目が悪い。
そんなもんでしょう。

「うし、寝よう。」

こうして、浩太の長い長い1日は幕を閉じた。

シャッター音は、人をも傷つける。（後書き）

感想評価お願いします。

一狩り行こうぜ

コケコッコー

朝ですわよ

俺はカーテンをズバッと開けた。

「うん、清々しい朝だ」

俺は太陽様にそういってから、朝ごはんを作り始めた。

実は、彼は幼いうちから両親を亡くしている。

物心がついたときにはもう一人暮らしをしていた。

「あっ…ウインナー焦げちゃった…」

料理は得意でもなく下手でもない、至って普通の腕前だ。

でも、周りの男子に比べるとなかなかできる方。

モテる要素の一つでもある。

「えっと…今日は…土曜日か、学校休みだ。　あ、きょう友人来るんだった。」

俺は、朝ごはんを食べ終わると食器を洗い、リビングの片付けを始めた。

一人暮らしだとそんなに散らかることがないため、片付けは結構早く終わった。

俺は友人が来るまで「いいとも！増刊号」を見ることにした。

「ったく…青木のやつ遅いなぁ…」

予定時間から１０分遅れてインターホンが鳴った。
「やっときたよ…」
俺はモニターを見ず青木だと思いドアを開けてしまった。
ガチャッ
「はーい」
するとそこには…

青木が立っていた

青木　「おいっす」
俺　「おせぇし」
青木　「おいっす」
俺　「はいって」
青木　「おいっす」

俺は若干イラッとした。

こいつは、青木　遼太郎って名前だ。
もちろん、帰宅部オールスターズの一員だ！
今日はこいつと一狩り行く予定だ。

「まぁ、そこ座れよ」
「おぅ、さんきゅうでっす」

俺は冷蔵庫からコーラを取り出した。
すると後ろからものすごい視線を感じた。
そして俺はそのコーラを戻してオレンジジュースを手にした。

そうするとその視線は消えた。

「わかってらっしゃる」

「そういや青木、炭酸だめだったんだな」

俺はとりあえずＰＣを起動させた。

背景画像は２次元の世界へ引きずり込まれるかのような画像だ。

「おい、背景チルノじゃねぇのかよ。」

「俺は、チルノはそんなに推してねぇからな」

「わかってねぇなあ」

俺は真っ先にニヤニヤ動画のトップページを開いた。

『にーーやにーやどーがっ』

青木が口を開いた。

「モンハン行こうぜ」

「ん、あぁ、いいよ」

「なに行く？」

「そうだなぁ、俺今特に足りてない物はないんだが」

「んじゃぁさ、銀レウス手伝って。シルソル作りたいんだけど若干足りないから」

「あ、いいよぉ」

「捕獲しますんで」

「了解。」

慣れた会話で話をすすめる。

「じゃ、準備おっけー？」

「いいよ」
「行きまーす」
『ぷぅぷぅー』
ここから、俺たちの銀レウスとの死闘が始まった

一狩り行こうぜ（後書き）

感想評価お願いします

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2301y/

人間はクズ　いや、俺は人間のクズ。

2011年11月22日05時14分発行